発行：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター（Vol.9）

NEWSLETTER（2017年度1号）　2017年5月18日

教職課程センター・地域学校教育センター

センター紹介　教職員紹介

大庭　大池　金子　高野

百瀬　樋口倫子　樋口真理子

Agora 教職アゴラの開設

教職課程センター/地域学校教育センターは開設以来「もう少し広ければ」の声がありました。そこで教職アゴラを開設しました。

アゴラ とはギリシャ語で「広場」の意味です。古代ギリシャでは、人々がアゴラに集い、国家の行く末や人の在り方、哲学を語り合いました。その中からソクラテスやプラトンなどのソフィストが誕生していきます。

ここでは進路に関わる相談や自習だけではなく、水曜日には国語の特別講座、先日は電子黒板を使った英語の模擬授業も開催されました。有効に活用し、いつか教場のソクラテスを排出できるといいですね。

センター長あいさつ　高野　敬三　（副学長　）

創設2年目の当センターは新しく3名の教員を迎えました。現場で鍛えられた教員、英語教育の専門家を加えられたことで、組織を生かした活動ができるようになりました。教職課程履修者を増やし、採用試験合格者の倍増を目指します。

また、都立高校における日本語指導や英語教育支援、足立区、浦安市の小中学校支援をはじめ、本学留学生の活用と児童・生徒との交流などを充実させて取り組んでいきます。

全学部、全教職員の温かいご協力の下、愛される明海大学を発展させます。

副センター長あいさつ　大池　公紀

新しいスタッフが増え、センターの躍動感と明るさが増しました。スタッフが増え、アゴラの新設、電子黒板をはじめとした ICT 機器の導入など、明海大学がセンターをあたたかくご支援してくださっていることを肌で感じると共に、その責任を痛感します。

今年も学生への熱い支援とシンポジウム、勉強合宿などの従来の企画、そして新しい企画を提供していきます。楽しみにしてください。

昨年度より当センターの発展を見てまいりました。教員の皆さんの学生に接する熱意に触れ、学生ファーストの対応を心がけています。学生のみならず、市民も対象にしようとする明海大学の姿勢に浦安市民としてもエールを送りたい思いです。

朝ドラ大好き2児の母です。15 時まで毎日学生の皆さんのご相談にも乗りますね。

樋口真理子（事務職員）

私の専門領域である健康行動科学の知見を、教職課程の教育実践に生かしています。健康行動科学は、人々の心身の健康や Well-being の促進を目指す実践的な科学です。具体的には、悩み、病気、失敗などの様々なストレスへの向き合い方を研究しています。ストレスは、あるがままの自分で生きることが幸せと知りつつ、周りを気にする恐れから、それができない矛盾を抱え、妥協を許して生きることで生じています。ストレスは、本人が本当の問題に気づき、それぞれの個性にあった生き方を学ぶ大切なチャンスです。そのことを理解して、対応できる人間性豊かな教師を育てたいと思っています。そのために、周りの評価を気にしすぎず、前向きに、穏やかに、明るく、自分に自信を持ち、チャレンジを厭わない、愛の溢れる個性が育まれるように、学生に関わっていきたいと思います。

樋口 倫子

私は、4月に外国語学部英米語学科から移籍してきました。それまでも教職科目を中心に担当してきましたが、教職課程センター職員として、より「教職」に集中することができるようになりました。センターには2つの役割があります。1つ目は本学の教職課程を活性化させ、教員免許状取得者と教員採用試験の合格者を増加させることです。教師という職業は大変魅力とやりがいがあり、そして未来社会を担う子どもたちを育てるという社会的にとても大切な役割があります。私の高校教師としての経験と英語教育に関するこれまでの研究を生かして、多くの学生が教師になる夢を叶えられるように全力でサポートをしていきたいと思います。明海の学生は大きな可能性を持っています。自らの可能性を最大限発揮できるように支援することが大切だと感じております。2つ目は、地域学校教育への貢献です。明海大学に寄せられる地域からの要望はますます大きくなっております。昨年度から足立区の小学校・中学校の英語教育支援を開始しました。今年は地元浦安市との連携も始まります。学校に入って具体的なお手伝いができることをとても楽しみにしております。

金子　義隆

3月まで千葉県公立高校で英語を教えていました。長くオールイングリッシュの授業を実践してきた経験から教員希望の皆さんにお伝えしたいことが2つあります。

1つ目は「もう、オールイングリッシュはあたりまえ」ということです。日本の英語教育の目的が、「教養」や「入試突破」ではなくなり、国際社会におけるコミュニケーション能力の育成と明言されている今、授業はコミュニケーション活動実践の場であり、その使用言語が英語であることは当然のことなのです。

そして、外国語でコミュニケーションを図ろうとすれば、そこには理解できない、伝わらないもどかしさが生じます。そのもどかしさ、人によっては辛さを乗り越えるためには、生徒と教師の信頼関係が不可欠です。これが2つ目のメッセージです。

生徒の心に寄り添い、夢の実現の手助けをする教師を育成したいと思います。もちろん教師としての、確固たる英語力も必要ですから、その指導も十分します。

私の誇りは、これまでに出会った高校生たちが成長し、現在様々な分野で活動しながらもそのルーツを高校時代の英語学習だと言ってくれることです。このような気持ちを一人でも多くの教員希望者に味わっていただきたいと思います。

百瀬　美帆

日本の伝統文化に触れる留学生　≪市川ろうそく能≫鑑賞　5月6日

能楽師九世橋岡久太郎氏のご招待で実現しました。初めての幽玄の世界を体感しました。「百瀬先生の解説があったので20%くらい理解できました。」「The actors beautifully portrayed whole play though I couldn't pick most of the language it was very interesting. The overall experience was very interesting and we got to know about Japan's traditional art. You should go.」などの感想が寄せられました。

Center IMA

特別講座の開催

5 月 10 日から時事通信社に依頼して教職法規及び教職時事に関する全 6 回の教職特別講習を開始しました。本学では初めての試みです。4年生だけではなく、教職を目指している卒業生や3年生にも開放しています。6 時限目という悪条件にもかかわらず総勢 20 名余の参加者がいます。6 月 22 日まで続きます。国語・英語の特別講習も実施中です。

種蒔きだけに終わらずに、しっかりとした実をつけてくれることでしょう。

小学校では英語の授業が楽しみな児童がたくさんいます。頭を抱える先生も結構います。このギャップを埋めるのがセンターの学校支援の役割です。

子供の国際未来社会を輝かせること、夢と学びの有機的なつながりを創る教師を育てたいと思います。言葉が思想をつくるを肝に銘じて。《編集担当》

大庭　裕

Mimiyori

学食の券売機に千円札を入れてコンポートに挑戦しました。浮かれておつりを取り忘れてしまいました。数分後、見ず知らずの学生が「先生のですか？」と持ってきてくれました。コンポート以上の満腹感でした。